



VOICE

読者のページ

2024年2月号(52巻2号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

やっている“つもり”になっていませんか？ 臨床検査の医療安全を見直そう

- 記事にある落とし穴は本当によくある話です。犯人探しになると、インシデント、アクシデントを隠す人が出てきます。気をつけようね、と日頃から気軽に声をかけ合える環境づくりも大事ですね。

パルム(和歌山県)

- 医療安全について毎日考えてやっているつもりが、本当に“つもり”になっているかと思わされました。今一度確認したいと思います。

あも(沖縄県)

- 担当業務の病理の記事を興味深く読みました。検体受付から病理診断までの工程内に潜むピットフォールにハッとする部分も、限られた人的資源と時間のなかで、いかに的確に対策するかが課題です。

IO(宮城県)

MT Seminar

シリーズ 日常のなかの例外・トラブル対応 2. 検査室の機器トラブル対策

- 自院には古い機器も多く、トラブル対応を記録に残していますが、災害対策が手薄でした。検査室は1階で近くに川もあり、水害が懸念されます。災害マニュアルの確認が急務だと感じました。

さんきち(山口県)

- 新年早々から大きな災害や事故があり、医療現場の災害も日常のなかの例外にすぎないかもしれないと実感しています。難しいですが、自分がその場にいたらどう対応するかを考え、常に備えたいです。

HY(福岡県)

- メンテナンスやバックアップは行えていましたが、免震対策は盲点でした。さっそく検討したいと思います。教えていただき、ありがとうございました。

HH(兵庫県)

基礎講座

ヘモグロビン A1c の各種測定法の特徴

- 普段から行う業務の一つですが、異常ヘモグロビンに関してはまったく知識がなく、大変勉強になりました。ありがとうございました。

RO(福岡県)

- ヘモグロビンの検査機器の買い替えを検討しています。タイムリーで参考になりました。

UT(大阪府)

- HbA1c値の標準化の経緯がわかりました。標準化になって数値を比較しやすくなったことが、一番のメリットです。

MT(青森県), YK(東京都)

- 日頃から糖尿病指導をしているので、記事が大変参考になりました。

コーヒータイム(山口県)

基礎講座

実践！免疫組織化学の精度管理

- 普段は機械で染色を行っています。便利な半面、途中の工程でトラブルが生じておかしい結果を招いたとしても、それに気づかないと、そのまま先生に提出し診断されてしまいます。臨床検査技師は、きちんと正しく染色されたかを見極める力が大切だと思います。

MM(秋田県)

- コントロールの必要性に関して、課内でも再教育しないといけないと感じています。本記事を参考にさせていただきます。

MT(京都府)

- 精度管理の重要性を再確認するとともに、あらためて勉強することができました。

YO(宮城県)

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはwebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

